



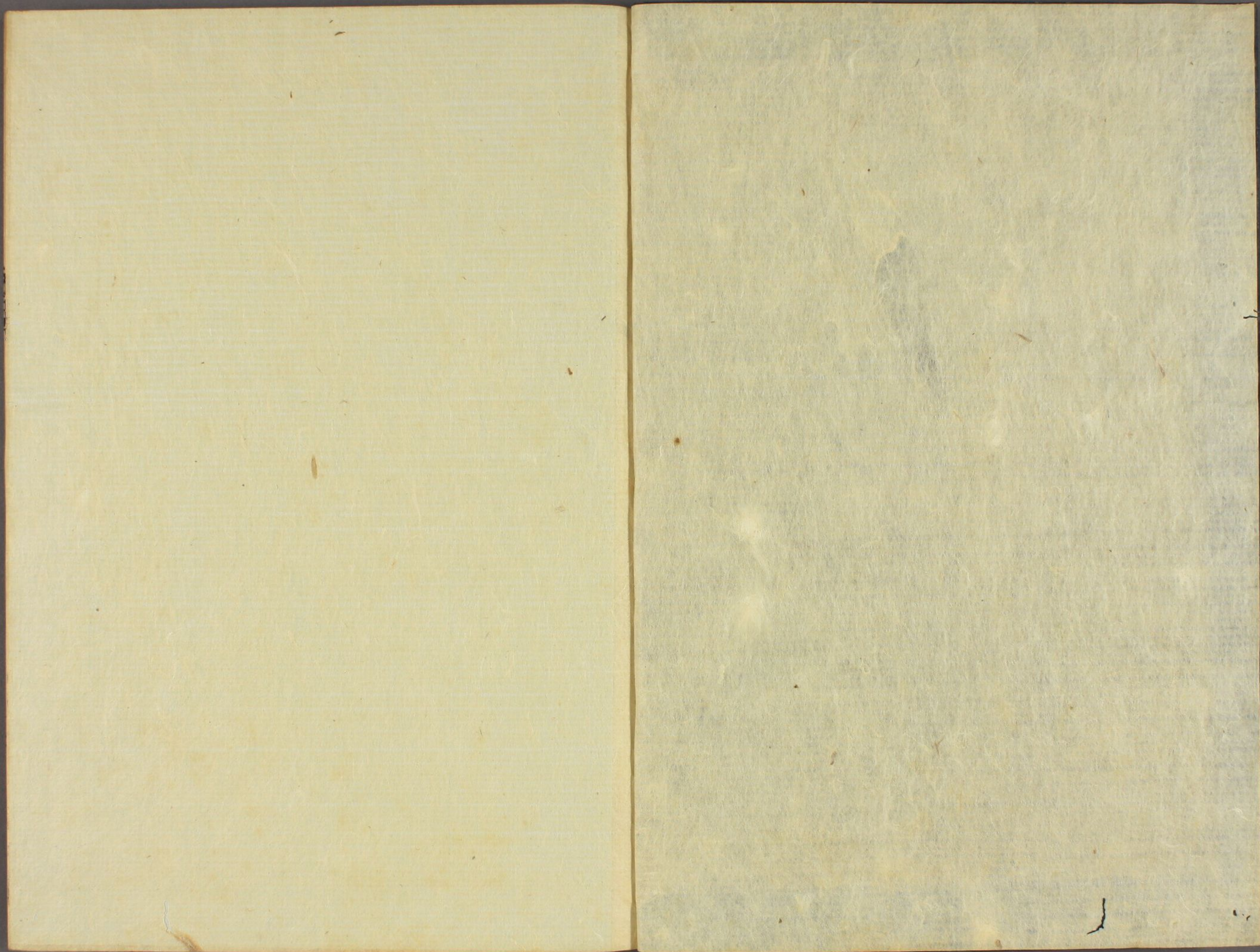
机右鈔

机

田

中村俊定文庫  
文庫 18  
1015  
4







相石抄巻四

相石下

相石河山

山

相石松

長文彦分

千早坂松茂此松相石松方伐之巨多六六

相石

夏後

松模夏

相石川林赤松て四月迄伐之巨多六六

相石

河原よりててて下りりるに松山より  
とてとてわのけりりる

松の

目録

ちりりり松茂此松相石松方伐之巨多六六

松茂

松茂松茂

千早坂松茂此松相石松方伐之巨多六六

松茂

中乃国此松茂此松相石松方伐之巨多六六

松茂此松相石松方伐之巨多六六

松

松茂松茂

相石松茂此松相石松方伐之巨多六六

松茂



後一宗院少可成行幸ゆりきり  
と東つ度ぬく一いのせはひくは神  
しりかつせはひきり又かきこころん  
しとけしひり

行幸

お殿の階下は条のひ

葵

後長祿  
昔はこおれは条のひりともお殿の好る人  
同はふれし心はゆめお殿はけりとも  
らりともお殿はけりともお殿の好る人  
とろりともお殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

心置神

朝念

朝念  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

山後

山後  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

日吉林

日吉林  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

紫野

紫野  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

花行

花行  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

標

標  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

新

新  
お殿の好る人  
お殿の好る人  
お殿の好る人

柳

桑

鶯

日

日

日

家取

大宮

千徳

御生所 日 市川松林寺の松とて年経とめん 急

田 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 象

葛藤釣 日 有るは松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

橋家 日 松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

北相 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

北 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

釣 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

松 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

松 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

松 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

松 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

松 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

鳥 新撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

神心 日

柄 新撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

子親 日 山崎ひくさる由緒松とて古くは松林寺なる 日

水花 金宗友 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

松 手成 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

葵 新撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

日産 新撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

市川 新撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

松云 後撰流 市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

市川松林寺の松とて古くは松林寺なる 日

玉季菜

雜類

玉季菜の根を切つて種をまき、此菜は涼しく香

椿

新義類

椿の根をまき、玉椿は一代を成すものなり

松

雑類

松の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

松菜

菜

松菜は蘇の葉を切つて、此菜は涼しく香

推菜

日

推菜はゆづり葉を切つて、此菜は涼しく香

花

森

花はゆづり葉を切つて、此菜は涼しく香

桐

日

桐の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

翠桐

雑

翠桐の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

檜

菜

檜の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

号

雑

号の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

枚

日

枚の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

椿

菜

椿の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

子

日

子の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

馬

日

馬の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

大馬

松菜

日

大馬の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

園

日

園の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

柏

日

柏の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

号

日

号の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

松菜

日

松菜の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

柞

日

柞の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

滝

日

滝の根をまき、月桂は数百年を成すものなり

藤

日

練衣のよきまはつゝ家へおむしりて敷くは 聖徳

はまの林奈は日へくまへ柳葉のまは

わりくちりくちりせせえれはまは

炭小松原

日

神心松原まき余松原のまき世と名代の松 五葉

所生所木

花

方風松原まき神心松原まき松原まき 成久

片松林

日

林

表松

まらまら松原まき松原まき松原まき 松原

野呂杜

動松

子松原まき松原まき松原まき 松原

田

新松

片松林のまきまき松原まき 松原

宏若

松林

かま松原まき松原まき松原まき 松原

松原

表

夕ま松原まき片松林まき松原まき 松原

御流

かま松原まき松原まき松原まき 松原

瑞穂原

かま松原まき松原まき松原まき 松原

葵

かま松原まき松原まき松原まき 松原

松

かま松原まき松原まき松原まき 松原

菅

片松林まき松原まき松原まき 松原

祇園

日

竹

後と松原まき松原まき松原まき 松原

松原まき松原まき松原まき 松原

姫小松

松林

千早松原まき松原まき松原まき 松原

松

松林

松原まき松原まき松原まき 松原

松原まき松原まき松原まき 松原

ふらふらひ

池菊

末

柳菴  
末  
重藤の池菊は露風吹く妻世事ふじ  
此菊  
明方角とふり重藤社の園の池の菊  
菊は  
菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
同

菊  
同

菊  
菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊

菊  
菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊

滝

目

滝  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊

茶

茶

茶  
茶は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
茶は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
茶は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
茶は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
茶は池菊の氷は紙の菊を今る菊

春野花

僕  
下

春野花  
春野花は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
春野花は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
春野花は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
春野花は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
春野花は池菊の氷は紙の菊を今る菊

春  
下

春  
下

大井河

同  
中

大井河  
大井河は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
大井河は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
大井河は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
大井河は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
大井河は池菊の氷は紙の菊を今る菊

大  
中

池菊

日

池菊  
池菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
池菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
池菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
池菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
池菊は池菊の氷は紙の菊を今る菊

池  
中

滝

滝  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊

滝  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊

滝  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
滝は池菊の氷は紙の菊を今る菊

柳

日

柳  
柳は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
柳は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
柳は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
柳は池菊の氷は紙の菊を今る菊  
柳は池菊の氷は紙の菊を今る菊

柳  
中



松池

池とて松とて海をくわたりしはたてよ

美代松の松池とて川に流るるの池水 全二巻

松の池に流るる松の池に流るる松の池

入道おとせおとせおとせおとせおとせ

竹うらやうりやうらやうり

松林

季歌

古松の林の松の林の松の林の松の林

お春松

子日

初春歌

子日とて松の池の松の池の松の池

美代

承保三年大井川の行幸日記より

行幸

初春歌

大井川より松の池の松の池の松の池

美代松

松清滝

日歌

松の松の松の松の松の松の松の松

松清滝

松野

家

美代松の松の松の松の松の松の松

松野

松尾上

松尾上の松の松の松の松の松の松

松尾上

松葉

松葉の松の松の松の松の松の松

松葉

松花

松花の松の松の松の松の松の松

松花

松林

松林の松の松の松の松の松の松

松林

松池

松池の松の松の松の松の松の松

松池

松鐘

松鐘の松の松の松の松の松の松

松鐘

松池

松池の松の松の松の松の松の松

松池

松池

松池の松の松の松の松の松の松

松池

松池

松池の松の松の松の松の松の松

松池

松池

松池の松の松の松の松の松の松

松池

樹石口 同

夏木

秋木は月桂の毛むらさきと花むらさき

樹石のりうりうり七葉中へとせはるる

山名一よきてははらりうり

夏木

冬木中におひる里たれたえとのまを粧して

大井河

夏木

いろはの葉の縁大井河下の樹の影中を

お葉

樹をりあり人むらりてあふふく又

月乃輪とまふふくむらりあひく

樹とあふふくくむらりうりうり

うりうりうりうり

うりうりうりうり

月桂

夏木

ささけ日小桂花もせゆかひ月桂も

梧桐

夏木

久み仲やうはらうひあふふく

樹石

夏木

久み桂の里たれたえとく月乃

雲

夏木

里たれ月桂花もささけ

藤垣

夏木

樹川四月花のやうな藤垣

樹石

夏木

樹石やうな樹石のりうり

樹人

夏木

い川よき花のりうり

樹石

夏木

樹石のりうりうり

柳

夏木

樹川河の柳のりうり

樹石

夏木

樹石のりうりうり

樹石

夏木

樹石のりうりうり

い川よき花のりうり

花 日

しんしん村をせほひるは方とま

と年らうまのほをれいしり花はゆりのりつりつり

いふの後相お居た里つりつりつり

るは花はつりつり人々おまをる

てほひつりつりつりつりつりつり

と欠れ

卯花 日

久の月の朝のちあつ花の里つりつり卯花 日

阿多 日

明月は桂の里の時鳥つりつり阿多 日

松古 日

月と金とえとのちれしん桂の里は松古の群 日

廣法池 日

多の金と月桂の里とといひつりつり廣法池 日

望月約 日

望月約つりつりつりつりつりつりつり 日

染田言 日

秋らうて桂の里に言ゆれは言は染田花は言 日

花例 日

桂川に女花はけやまはつりつり花例 日

波登 日

とね桂の里つりつりつりつりつりつり 日

三取山 日

糸 日

雨は糸のよとと三取山つりつり糸 日

むねのつりつりつりつりつりつり

つりつり

は蘇

いそ松さつりつりつりつりつりつりつり 日

と

つりつりつりつりつりつりつりつり 日

余

つりつりつりつりつりつりつりつり 日

糸

つりつりつりつりつりつりつりつり 日

阿多

つりつりつりつりつりつりつりつり 日

山科

春

あけはるのよしの山科の雪はふははるる

町

春

うしろのよしの町の雪はふははるる

峯松

日

まじりあはれ一村の雪はふははるる

花澤

日

まじりあはれ一村の雪はふははるる

鹿背山 日

雪

夏

あけはるのよしの雪はふははるる

花百

日

うしろのよしの花はふははるる

麓原

春

あけはるのよしの麓原の雪はふははるる

坂

春

あけはるのよしの坂の雪はふははるる

泉川

春

あけはるのよしの泉川の雪はふははるる

町

春

あけはるのよしの町の雪はふははるる

松

日

あけはるのよしの松の雪はふははるる

夕

日

あけはるのよしの夕の雪はふははるる

春日 山野 大和

宜

夏

あけはるのよしの宜の雪はふははるる

栗

日

あけはるのよしの栗の雪はふははるる

振

日

あけはるのよしの振の雪はふははるる

紫

日

あけはるのよしの紫の雪はふははるる

藤

日

あけはるのよしの藤の雪はふははるる

春

あけはるのよしの春の雪はふははるる

花

日

あけはるのよしの花の雪はふははるる

恙

春

あけはるのよしの恙の雪はふははるる

有下四

松子全書春日松子の松はそを神の松とて人徳に似たり

作保月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

船子月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

谷松月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

林環月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

姫小松月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

萩月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

萩月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

萩月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

造唐使より由り流るる一竹あり  
はよむれ松の目よりみたりけり

松後白春日松の松は神の松とて人徳に似たり

林後白春日松の松は神の松とて人徳に似たり

野新白春日松の松は神の松とて人徳に似たり

黒木月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾花月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

法月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

萩月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

尾月好春日松の松は神の松とて人徳に似たり

有下四

十一

柳	日	二月廿九日	柳木四
藤	日	三月一日	藤木
桃	日	三月二日	桃木
櫻	日	三月三日	櫻木
梅	日	三月四日	梅木
橘	日	三月五日	橘木
梨	日	三月六日	梨木
杏	日	三月七日	杏木
李	日	三月八日	李木
桃	日	三月九日	桃木
櫻	日	三月十日	櫻木
梅	日	三月十一日	梅木
橘	日	三月十二日	橘木
梨	日	三月十三日	梨木
杏	日	三月十四日	杏木
李	日	三月十五日	李木
桃	日	三月十六日	桃木
櫻	日	三月十七日	櫻木
梅	日	三月十八日	梅木
橘	日	三月十九日	橘木
梨	日	三月二十日	梨木
杏	日	三月二十一日	杏木
李	日	三月二十二日	李木
桃	日	三月二十三日	桃木
櫻	日	三月二十四日	櫻木
梅	日	三月二十五日	梅木
橘	日	三月二十六日	橘木
梨	日	三月二十七日	梨木
杏	日	三月二十八日	杏木
李	日	三月二十九日	李木
桃	日	三月三十日	桃木
櫻	日	三月三十一日	櫻木

柳	日	三月三十一日	柳木
藤	日	四月一日	藤木
桃	日	四月二日	桃木
櫻	日	四月三日	櫻木
梅	日	四月四日	梅木
橘	日	四月五日	橘木
梨	日	四月六日	梨木
杏	日	四月七日	杏木
李	日	四月八日	李木
桃	日	四月九日	桃木
櫻	日	四月十日	櫻木
梅	日	四月十一日	梅木
橘	日	四月十二日	橘木
梨	日	四月十三日	梨木
杏	日	四月十四日	杏木
李	日	四月十五日	李木
桃	日	四月十六日	桃木
櫻	日	四月十七日	櫻木
梅	日	四月十八日	梅木
橘	日	四月十九日	橘木
梨	日	四月二十日	梨木
杏	日	四月二十一日	杏木
李	日	四月二十二日	李木
桃	日	四月二十三日	桃木
櫻	日	四月二十四日	櫻木
梅	日	四月二十五日	梅木
橘	日	四月二十六日	橘木
梨	日	四月二十七日	梨木
杏	日	四月二十八日	杏木
李	日	四月二十九日	李木
桃	日	四月三十日	桃木
櫻	日	四月三十一日	櫻木

石

日

石代の石よりいひしと石代に於ては石より

集

蟹

日

石見の蟹よりいひしと石見に於ては蟹より

集

氷

日

石見の氷よりいひしと石見に於ては氷より

集

雲

日

石見の雲よりいひしと石見に於ては雲より

集

草

日

石見の草よりいひしと石見に於ては草より

集

蘭

日

石見の蘭よりいひしと石見に於ては蘭より

集

萱

日

石見の萱よりいひしと石見に於ては萱より

集

稻

日

石見の稻よりいひしと石見に於ては稻より

集

杉

日

石見の杉よりいひしと石見に於ては杉より

集

竹

日

石見の竹よりいひしと石見に於ては竹より

集

松

日

石見の松よりいひしと石見に於ては松より

集

芝

日

石見の芝よりいひしと石見に於ては芝より

集

宣

日

石見の宣よりいひしと石見に於ては宣より

集

横

日

石見の横よりいひしと石見に於ては横より

集

的

日

石見の的よりいひしと石見に於ては的より

集

板

日

石見の板よりいひしと石見に於ては板より

集

藤

日

石見の藤よりいひしと石見に於ては藤より

集

柏本社

同

町

日

石見の町よりいひしと石見に於ては町より

集

町

日

石見の町よりいひしと石見に於ては町より

集

林

日

石見の林よりいひしと石見に於ては林より

集

藤

未

こはゆゆきもしてふたふたうた柏木なり

杉原の

之を

日

柏木枝のありきりてふたふたうた

貞剛

葛城

早

日

岩橋

蓬

岩橋のありきりてふたふたうた

蓬

高天

森

高天のありきりてふたふたうた

孔補

谷川

日

谷川のありきりてふたふたうた

後

久米

日

久米のありきりてふたふたうた

吹

極高

日

極高のありきりてふたふたうた

床

花

日

花のありきりてふたふたうた

人

薙

日

薙のありきりてふたふたうた

飛

豊

日

豊のありきりてふたふたうた

海

松

日

秋のありきりてふたふたうた

南

柳

日

春のありきりてふたふたうた

北

梅

日

梅のありきりてふたふたうた

深

後

日

後のありきりてふたふたうた

慈

柳

日

柳のありきりてふたふたうた

之

卯

日

卯のありきりてふたふたうた

卯

夕

日

夕のありきりてふたふたうた

夕

草

日

草のありきりてふたふたうた

草

名

日

名のありきりてふたふたうた

忠

佐

日

佐のありきりてふたふたうた

佐

那

日

那のありきりてふたふたうた

後



町多 日 とも捨てしをうなる一内をうくまふぬいり也 法皇

将 日 しのぶをたけくはるしきもゆらぐものも 清隆

虹お紫 日 うら河多に三枝お紫深澄しうる高城の 兼深

屋 日 文はらりそり橋をいかにしてとまはるる高城の 行

屋 日 志しれ庭をけく高城を庭ををまきゆ 此景遠か 兼深

金御嶽 日

山嶽よりまうしゆりくる精を此鏡金鏡の

は花江をきりて後山にまおと火をうる

やてまうりゆりくる町をいかにゆりん

物まをけくとまえゆりくる

法施 兼深 友まをしそは庭のゆりけりともまはるる法施 兼深

菫野 奉 志う代りりまうりあすのゆくはるま世を染 法皇

北川 日 物まをし北川をきりて後山にまおと火をうる 弘隆

練南備 里山川 大和

岩瀬 粟 林南備よりなる山は北川をきりて後山にまおと火をうる 法皇

多里 日 志承いりまうりあすのゆくはるま世を染 日

呼多 貝 林南備は岩瀬の字まうりあすのゆくはるま世を染 日

駒 日 林南備は北川をきりて後山にまおと火をうる 日

亀田 日 志と七味よりくるまうりあすのゆくはるま世を染 日

町多 日 林のいりまうりあすのゆくはるま世を染 日

岩瀬社 日 林のいりまうりあすのゆくはるま世を染 日

岩瀬社 日 林のいりまうりあすのゆくはるま世を染 日

栢

日

子振社のいしの栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

以後

後漢

夏に新田の栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

山林

後漢

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

三石山

後漢

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

町

後漢

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

柳之葉

後漢

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

蕨

日

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

沃

日

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

萩

日

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

林森

日

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢

日

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

竜田

日

竜田の栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

森

日

森の栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

山

日

山の栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

林の葉

日

治

山

山の栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢の葉

治

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

栢の葉を煮て酒に漬けて飲む

治

石清水

神代卷 神代神社ありては名をたれまの地とてゆふ

神代卷

後言 神代神社ありては石清水といては後言代の石

はく

畑

畑 畑といふは神代神社の木の根の目とて出ず

畑

畑

畑 畑の原は地をたれまの地とてゆふ

畑

畑

畑 畑の原は地をたれまの地とてゆふ

畑

神代神社 丹波

長久九年は春に丹波守大嘗會に奉

方は神代神社の丹波の園神南條に

と云ふ

表集 神代神社の丹波神社とては神代神社の元 石清水

石清水元年大嘗會に奉方とて

神代

日

しりしり神代神社の丹波園神の地とて

かして神代神社の丹波園神の地とて

神代

原

神代

大和

神代

神代

神代神社の丹波園神の地とて

神代

神代

神代

神代神社の丹波園神の地とて

神代

神代神社の丹波園神の地とて

神代神社の丹波園神の地とて

神代神社の丹波園神の地とて

神代神社の丹波園神の地とて

神代神社の丹波園神の地とて

神代神社の丹波園神の地とて

山とてあふれし人のこころをわびぬ  
さうとてそくのけりく

後達

志のこころをわびぬ

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

全

あふれし人のこころをわびぬ

日

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

日

あふれし人のこころをわびぬ

日

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

柳本

後達

あふれし人のこころをわびぬ

去推 彦 片足松吹の海に身を沈めし物日約るれや去推の也 後集  
葛 道よりこゝろこゝろ言はれしやけりし言はれぬ 中巻

文野 河内

柳 全巻 ところも文野の柳の影をまじへてかたつれ 因縁

栢 初巻 文野の柳の影をまじへてかたつれ 後集

新極 日下 柳の影をまじへてかたつれ 後集

栄流 日下 柳の影をまじへてかたつれ 後集

紫名 日下 柳の影をまじへてかたつれ 後集

天川麻 後集 柳の影をまじへてかたつれ 後集

栢 後集 柳の影をまじへてかたつれ 後集

葛 後集 柳の影をまじへてかたつれ 後集

美葉 柳の影をまじへてかたつれ 後集

波傲 柳の影をまじへてかたつれ 後集

柳子香 柳の影をまじへてかたつれ 後集

河内松 柳の影をまじへてかたつれ 後集

鈴云 柳の影をまじへてかたつれ 後集

雲 柳の影をまじへてかたつれ 後集

皇明 柳の影をまじへてかたつれ 後集

柳 柳の影をまじへてかたつれ 後集

波傲石 柳の影をまじへてかたつれ 後集

舟橋 柳の影をまじへてかたつれ 後集

馬	芳花	萩	萩	長	蘭	櫻	書	薄	葉	鳥
景	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
三川松とわかれはさるる人交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心
鳥	道	川	家	家	家	家	家	家	家	家

夜	嶺	水	百	夕
日	日	日	日	日
松とわかれはさるる人交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心
松	道	道	道	道

嶺	松	鈴
日	日	日
はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心	はるる交神と出づる居る心
松	道	道

林

後山林

鈴鹿の山をばねはれ林は山林葉多くあり月影 懐念を

小車錦

後山林

小車錦の白粉は白く又わらわりの年ははる 冬は雪

白糸

紅葉

秋の白糸の文の行舟の影はさくらとよ 秋の白糸

雲霞

紅葉

水と白雲は秋の白糸とよとよ川の流るる 紅葉

谷音

紅葉

谷音ははるくもわらわは秋の白糸とよ 秋の白糸

松夏

紅葉

秋の松の梢は秋の白糸のさくらとよ 秋の白糸

花

紅葉

秋の花の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

御石

紅葉

秋の御石の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

秋舞

紅葉

秋の舞の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

松云

紅葉

秋の松の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

紅葉

紅葉

秋の紅葉の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

青

紅葉

秋の青の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

玉色

紅葉

秋の玉色の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

東

紅葉

秋の東の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

甲斐

甲斐

作

紅葉

秋の作の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

日

秋の日の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

町

紅葉

秋の町の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

音

紅葉

秋の音の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

葉

紅葉

秋の葉の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

松

紅葉

秋の松の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

葉

紅葉

秋の葉の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

松

紅葉

秋の松の白糸は秋の白糸とよとよ 秋の白糸

白雲口  
白雲口  
甲斐花の白雲口  
白雲口  
白雲口  
白雲口

歌舞  
白雲口  
風越花の歌  
白雲口

町  
白雲口  
風越花の町  
白雲口

雪月  
白雲口  
風越花の雪月  
白雲口

梅  
白雲口  
梅の花  
白雲口

花  
白雲口  
風越花の花  
白雲口

梅  
白雲口  
梅の花  
白雲口

木下  
白雲口  
木下  
白雲口

梅  
白雲口  
風越花の梅  
白雲口

霞園

厚  
白雲口  
霞園  
白雲口

霞浦

九日

三十一



船

新編

船の浦に舟を泊せしむる人々

舟

雲漁火

日

舟の浦に舟を泊せしむる人々

舟

鳥

新編

鳥の浦に舟を泊せしむる人々

鳥

藤垣

新編

藤垣の浦に舟を泊せしむる人々

藤垣

橋

日

橋の浦に舟を泊せしむる人々

橋

伏屋

日

伏屋の浦に舟を泊せしむる人々

伏屋

花

日

花の浦に舟を泊せしむる人々

花

笠屋

日

笠屋の浦に舟を泊せしむる人々

笠屋

海

新編

海の浦に舟を泊せしむる人々

海

麻

鳥

回

新編

麻の浦に舟を泊せしむる人々

麻

妻

新編

妻の浦に舟を泊せしむる人々

妻

おきかき... 妻の浦に舟を泊せしむる人々

新編

おきかき... 妻の浦に舟を泊せしむる人々

おきかき

橋原

新編

橋原の浦に舟を泊せしむる人々

橋原

菅

日

菅の浦に舟を泊せしむる人々

菅

松

日

松の浦に舟を泊せしむる人々

松

新野

日

新野の浦に舟を泊せしむる人々

新野

瓶

日

瓶の浦に舟を泊せしむる人々

瓶

瓶

日

瓶の浦に舟を泊せしむる人々

瓶

おきかき... 瓶の浦に舟を泊せしむる人々

のさしては陸地よりしきりては海に  
ゆりゆりせしむるやむらびの海に  
あふみあふみあふみあふみあふみ  
とまの信をよみしつらふれは神代  
かゝゆはかゝるといふわらう  
ゆりーしそ方のよこしてあふ  
ゆりーしそ方のよこしてあふ  
ゆりーしそ方のよこしてあふ

石御座

日

尋のひそかきしるを海原のむらびの海に  
はるの海原のむらびの海に  
あふみあふみあふみあふみあふみ

是後

これよりして海原のむらびの海に  
あふみあふみあふみあふみあふみ  
ゆりゆりせしむるやむらびの海に  
あふみあふみあふみあふみあふみ  
とまの信をよみしつらふれは神代  
かゝゆはかゝるといふわらう  
ゆりーしそ方のよこしてあふ  
ゆりーしそ方のよこしてあふ  
ゆりーしそ方のよこしてあふ

日

ゆりゆりせしむるやむらびの海に  
あふみあふみあふみあふみあふみ

日

くさかんさるは松りゆの橋を  
七里とやあつとく

唐崎

近江

山後

金井お

山後とつりつる松とつらと山後松のひくつり  
平松奉

くさかんさるは松りゆの橋を

舟のまうりつる松りゆ

浦桑

日取

くさかんさるは松りゆの橋を

浦桑

御高峯

新法

くさかんさるは松りゆの橋を

御高峯

比叟

新法

くさかんさるは松りゆの橋を

比叟

長崎

日取

くさかんさるは松りゆの橋を

長崎

湖崎

新法

くさかんさるは松りゆの橋を

湖崎

高砂

日取

くさかんさるは松りゆの橋を

高砂

松

新法

くさかんさるは松りゆの橋を

松

林崎

日

くさかんさるは松りゆの橋を

林崎

行香

真

くさかんさるは松りゆの橋を

行香

柳

未

くさかんさるは松りゆの橋を

柳

時多

日

くさかんさるは松りゆの橋を

時多

書心

日

くさかんさるは松りゆの橋を

書心

鷲

日

くさかんさるは松りゆの橋を

鷲

痛

日

くさかんさるは松りゆの橋を

痛

溪松

日

くさかんさるは松りゆの橋を

溪松

策三冠 日  
三橋林 日

幸修や長等此のよわく  
幸修や松の梢に安んずる

此後  
返信等

浦

浦邊

浦邊の浦に安んずる

祝の慶

浪

浪

浪の浦に安んずる

親の

射

新六

射の浦に安んずる

聲の言

乃

来

乃の浦に安んずる

海に

雲

日

雲の浦に安んずる

之の

子

日

子の浦に安んずる

為の

池

日

池の浦に安んずる

清の

芦

日

芦の浦に安んずる

水長

山

日

山の浦に安んずる

好の

鏡

日

夏

鏡の浦に安んずる

大の

秋

鏡の浦に安んずる

赤の

冬

鏡の浦に安んずる

白の

春

鏡の浦に安んずる

黒の

夏

鏡の浦に安んずる

青の

秋

鏡の浦に安んずる

緑の

冬

鏡の浦に安んずる

赤の

春

鏡の浦に安んずる

白の

夏

鏡の浦に安んずる

黒の

木下四

湖沼 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 茶園  
呼子 日 人教とせむの心しつらぬ海に如き也なり 呼子  
玉桂 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 定家

卯花 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 秋盛  
野書 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

勢多 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 徳因  
老翁社 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長信

高橋 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人  
萩 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

駒 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人  
夕三 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

花水尾 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人  
何所川 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

馬 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人  
を算 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

菜 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人  
陸野 日 人の心を多しはらりたてし心しつらぬ海に如き也なり 長人

九二日

二二二



ことばのつらさのほどは  
 ねえとばかりは後の本はあつたり  
 せうりなれどもあつたり

